

2010年 梅雨明けです。中津より

15日中津へ来るときには土砂降り、あっちこっちが思いもよらない被害を起こしました。
今日はいきなり梅雨明け、いきなり真夏の高温。激しい気象変化に日本中が戸惑いを感じています。



早朝から雲はあるもの真夏の晴れ間が見えました。昨日は一日中雨雲が漂っていました。

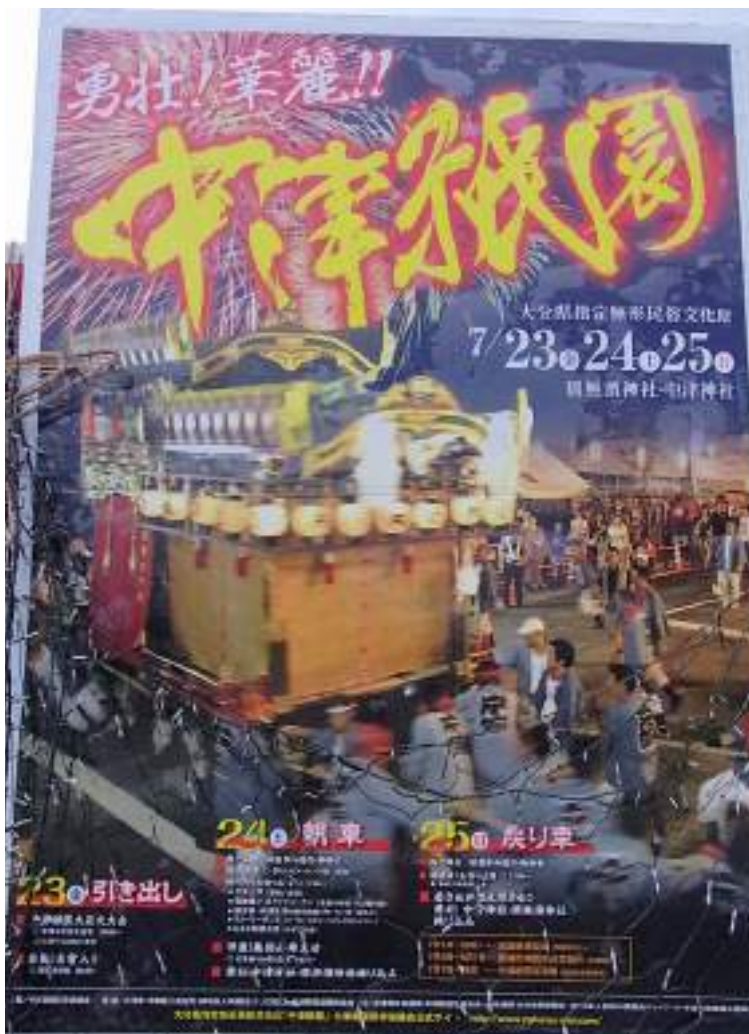


八面山には早朝から入道雲。



梅雨中よりニーンと鳴き始めていたチイチイゼミもワシワシ・・・となくクマゼミに呑まれてしまった。
いよいよクマゼミ(ワシワシ)のお出まし、川では育ち盛りの鯉が群がっていた。





中津では中津祇園の季節、梅雨も明け 23 日に向けて一気に組立てがはじまる。

豊後町祇園車 昭和三十五年以

豊後町の車は中津祇園史上最初の祇園原型と言われています。豊後町はかつての並べた町でした。天和三年（一六八三年）、社の祇園社は京都の祇園社から勧請され、私たちも京都の祇園にならって美麗な山か」との発意がありました。

これに対して当時の中津藩主である小笠原速京郡に山車を発注し、豊後町に与えられた。長胤公も同時に与えたので豊後町の祇園車は「い車」となり、車全体を朱の漆で塗ります。「踊り車」に対して、豊後町の車は「楽（ようこうがく）」という昇が披露されて、鉦が拍子をとる、白の唐衣に真紅の母衣になって昇うというものでした。昇が終わり、老舗の傭人が大傘を差してあげたり、大田児に付き添ったそうです。囃子も「チキチ」ではなく、傘鉦が後に付き、笛の入った優れていま。す。今回の調査で、車後上部の五七の裏書が確認され、台輪や兜金などに大規模な補修を行ったという記録も確認されました。

中津祇園の中で、豊後町御神楽奉斎車の戦後に踊り車へと姿を変え、そして昭和に加となりました。以降、老朽化のため、略破棄された」というのが祇園関係者内での十五年三月に中津市三保の歴史民族資料が保存されているということが判明し、月にかけて中津祇園研究会を中心に、上集い、「踊り車ではなく「御神楽奉斎車」とした。数十年の時を経て、ここに蘇った「御

比較部位	現在の祇園車	二階建て（二階部分がある）
構造	二階建て（二階部分がある）	折屋根が大きい
塗	黒や紺色など	あり
屋根の形	両端が水平	あり
舞台と乗屋の広さ	下正路町以外はほぼ同じ広さ	あり
柱	角柱	短い柱が外側
柱の位置	男柱（短い柱）が内側	短い柱が内側
台	波などの複雑な彫り	という向素な彫り
局額の文字	下正路町以外は町名	（下正路町は「天鳥丸」）

十三年ぶりに復活

あり、現在の祇園車の久街道で、老舗が軒を町有志から「閑無法師」で正し祇園社です。出しているようにしよう

これはこの事を許し、早くこれが中津の「祇園車」園車だけでなく、御神楽奉斎車」という格の高た優雅な車であったと「と呼ばれ、では「影向」した。笛の音にあわせ、車後に傭人が付き、囃子も「チキチ」であったと伝えらる。裏には安政四年（一八四四年）（一九一）

は特別なものでしたが、五年の祇園祭が最後の参十年代に豊後町の車は減ったのですが、平成庫にはほすべての部品と下祇園の各町の有志が復元作業に取り組みま奉斎車」をこびくたさい

今は動いていない豊後町の祇園車は祇園の発祥の謂れとともに中津駅構内にこの時期展示されている。

ちゅう げん まち

鷹匠町

この町について

中津城総曲輪内の東南に位置する武家屋敷町。細川忠興公は飛木の一番鷹や津民鷹を使って鷹狩りを盛んに行ったという。城下には鷹狩りに因んだ町名が三町（鷹匠町、餌指町、鷹部屋）ある。「鷹匠町」はその一町。町内には東林寺・寿福寺・大江医家史料館小笠原灯籠などがある。

中津中央ロータリークラブ

ちゅう げん まち

寺町

この町について

中津城総曲輪内の東側に在って島田口と蛸瀬の中間に城下防備を目的に造られた町。ここ「寺町」には、黒田入封以前からの地藏院、安随寺と黒田藩時代に開基の合元寺や大法寺、円心寺、西蓮寺、細川藩時代の善門院、宝庫坊、本伝寺、小笠原藩時代の円電寺、浄安寺そして奥平藩時代の松巖寺の計十二ヶ寺がある。

中津中央ロータリークラブ

ちゅう げん まち

仲間町

この町について

中津城の東側、豊後町の南側に位置し、鷹匠町に並行して東西に伸びる武家屋敷町。奥平藩時代になると藩の役職名を附した町名が多く見られる。「仲間町」もその一町。町内には稽古屋跡・小田部武右衛門宅跡などがある。

中津中央ロータリークラブ

しん は か た ま ち

新博多町

町名の由来

中津城東側にあつて中津城下初期の町屋十四町の内の二町、細川時代に「千助堀」を埋めて造った町で「博多町」に対して「新博多町」となった。

中津中央ロータリークラブ

今回歩いて見つけた中津の町の由来。町名の由来を見るとそこに歴史が蘇る。

歩いて出会った花たち



イチジクの木の下に行くと独特のにおいがする。前の家の裏に親父が植えたイチジクの木を思い出す。

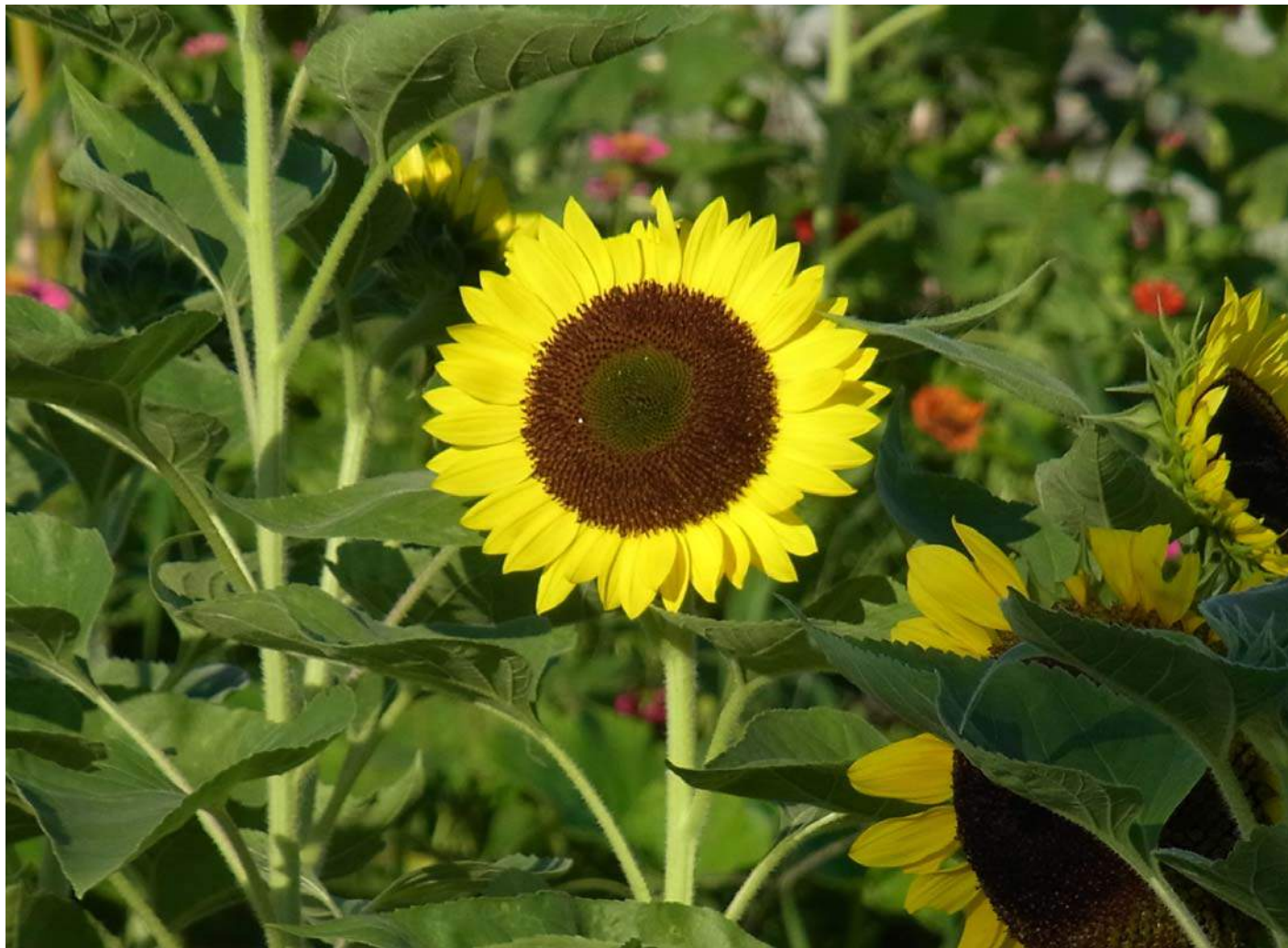


同じ黄色の似た花だが、見になると皆違う、ニガウリ、きゅうり、かぼちゃとなる。





この花を見るとサンディエゴのラマダインホテル近くのガソリンスタンドを思い出す。



夏の花は何んといってもこれ。実りすぎて持ちこたえできないようだ。それでも太陽へ向けて。



飛び疲れた蝶、この姿見てよと言わんばかりの蝶、夏の間華やかな蝶の栄枯盛衰か・・・